

福井の戦国 歴史秘話

<第10号>

平成30年1月11日発行

細やかな心遣いと思いやりを持つ、優しき女性「初」

戦国の世から江戸時代へ波乱万丈の人生を送った女性。今回は、豊臣側（姉：茶々）と徳川側（妹：江）の橋渡し役として知られる浅井三姉妹の次女、初（常高院）を紹介します。



初(常高寺所蔵)

初は、元亀元（1570）年（諸説あり）、浅井長政と市（いち）の間に三姉妹の次女として生まれます。天正元（1573）年、小谷城が市の兄、織田信長に攻められ、長政は自刃。市と三姉妹は、家臣の藤掛永勝によって織田家の庇護を受けることとなりますが、その信長も1582（天正10）年本能寺の変で討たれます。天正10（1582）年、お市は柴田勝家と再婚し、三姉妹とともに越前・北ノ庄城に入ります。そのわずか1年後、勝家は賤ヶ岳の戦いで羽柴秀吉に敗れ、市とともに自害。三姉妹は、今度は秀吉に引き取られたのでした。

天正15（1587）年、秀吉の計らいで、初は従兄に当たる近江の大溝城主・京極高次（きょうごくたかつぐ）に輿入れします。高次は、慶長5（1600）年の関ヶ原の戦いで徳川側につき、大津城籠城により西軍（石田側）の足止めをしたことが徳川家康に認められ、若狭国8万5千石を拝領します。実は、この成功の裏には、初の支えがありました。籠城の際、初は城に留まり、侍女と一緒に兵のために水を汲み、飯を炊いたとも、侍女に鉄砲の弾を作らせたと伝わっています。

若狭小浜藩の初代藩主夫人となった初は、徳川秀忠と江の4女・初姫、2代目小浜藩主・忠高の異母弟・高政など、身内の子の養育に尽力します。初は、子宝には恵まれませんでした。その分、身内の子に精一杯の愛情を捧げていたのです。

慶長14（1609）年、高次が亡くなると、初は、落髪・出家し、常高院と称し、若狭に禅宗の寺院（常高寺）を建立する意思を固めます。しかし、夫の菩提を弔う穏やかな日々は続かず、大坂冬の陣、夏の陣が起ります。初は、家康の命により豊臣家と徳川家の仲介をしますが、姉の淀殿をはじめ、多くの親族を失いました。失意の初は、若狭へ戻り、しばらく小浜城の西の丸の屋敷で暮らしました。晩年は、江戸に住みながら常高寺の建立を進め、亡くなる3年前の寛永7（1630）年、念願の本堂が完成します。小浜の町と海が見渡せる一等地に建立され、初の「たとえ国替えがあっても寺が続くようにお心添えをいただきたい。」との遺言どおり、常高寺は当時から変わらずこの地に残っています。心の平安を取り戻すため暮らした地、小浜。裏山には、7人の侍女たちに囲まれた初の墓碑があり、今でも小浜の行く末を静かに見守っているのです。

<参考資料> 県立若狭歴史博物館『「戦国三姉妹 初 一初眠る若狭小浜」図録』

～戦国ふくい歴史紀行～ [臨済宗妙心寺派 凌霄山 常高寺]

初(常高院)の発願により、寛永7(1630)年に小浜出身の槐堂周虎(かいどうしゅうこ)禅師を迎えて開山。常高院の肖像画や墓所のほか、狩野派の名手、狩野美信筆の書院壁画等が往時の盛運を偲ばせています。【住所】小浜市小浜浅間1(JR小浜駅から徒歩15分)



常高寺

★お知らせ 一乗谷朝倉氏遺跡資料館 第4回特別公開展「一乗谷を掘る・調べる～学芸員の仕事～」(12/16～3/18)
戦国時代の一乗谷は、一万人近くの人々が生活する大都市であり、発掘調査によりそれを裏付ける多くの遺物が出土しています。今回は、一乗谷の発掘調査で出土した遺物を公開するまでの工程を紹介します。
【お問合せ先】福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 住所:福井市安波賀町4-10 電話0776-41-2301

(発行者)福井県 (問合せ先)福井県観光営業部ブランド営業課 前田、安達 ☎ 0776-20-0762